

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 材料の選び方を考えよう「アップとルーズで伝える」

2 指導の考え方

本学年の児童は、1学期単元「『かむ』ことの力」において、段落の要点をとらえ、段落と段落のつながりや意味段落のまとまりを考えながら、「かむ」ことの意味とよさを読み取る学習をしている（取り出し、解釈）。また、文章の最後の段落から、筆者の考え（体の各部分の働きが他の部分の活動や発達に深くかかわっている）について本当にそう言えるかを、自分の経験や調べたことを根拠に考えを書きまとめる学習をしてきている（熟考・評価）。

しかし、形式段落の初めに前の段落とのつながりを示す接続語（「次に」「さらに」等）がないと段落相互の関係をとらえきれなかったり、意味段落のまとまりにうまく見出しをつけられなかったりする児童は多い。また、読み取った教材をもとに調べ、調べたことからどれを選び、どう構成して自分の考えを書きまとめていくかというところに時間がかかる児童は少なくない。

本単元は、教材「アップとルーズで伝える」の読む活動をもとにして、目的に合わせた伝え方について考え、学校や地域にある物について調べ、書く活動へつなぐという構成になっている。

教材「アップとルーズで伝える」は、テレビや新聞で、受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップとルーズというとり方を決めたり、とったものを選んだりするという目的に応じた伝え方について書かれている。

文章構成としては、「初め」に話題を提示し、「中」でテレビの映像に見るアップとルーズの伝え方の違いと、新聞に見る伝えたい内容に合わせたとり方等を説明し、「終わり」でテレビや新聞に見る目的に応じた伝え方についてまとめている。特に「中」のアップとルーズのそれぞれの事例については、「とったシーンの説明」「シーンから分かる様子」「よく分かること」「分からないこと」という説明の順序が同じで、内容が対比的に書かれ、違いが分かりやすいような文構成になっている。さらに、「このように」とアップとルーズの事例をまとめる段落の役割も分かりやすい。

しかし、形式段落8「写真にも～」、形式段落9「テレビや新聞でも～」という段落のつながり方は、接続語がないだけに、内容面から段落相互の関係を考えなければならない。

「アップとルーズで伝える」から書く活動へつなぐ「4年3組から発信します」は、学校や地域にある物から、もっと詳しく知りたいことを考え、調べることを決め、本で調べ、調べた事柄から知らせることを選び、新聞にまとめるまでの手引きである。調べた事柄を整理するメモ、目的に合った写真の選び方、書かれた文章の見本等が、児童の書く活動の参考となるようになっている。

実践にあたっては、研究主題「教科横断的な読解力を育成する学習指導法の研究」の立場から、PISA型読解力の育成を目指す読解の技能表をもとに、明確な目標を設定し、論理的な思考を促す言語活動を取り入れていくこととする。

そこで、アップとルーズについて「比べる」という論理的な思考を働かせて読解力を培い、それを算数的活動における言語活動へ活用するという見通しをもって、指導にあたる。中学年の説明文の読みでは、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら、文章を読むことが基本である。

そこで、情報の「取り出し」「解釈」の段階を中心に、次の二つの実践から検証を行う。

(ア) 言葉を選び出し、その意味を考える情報の「取り出し」と「解釈」の段階

読み確かめにおいて「アップでとると、細かい部分のどんな様子が分かるのか。」という疑問を解決するために、「キーワード（細かい部分の様子が分かる言葉）に目をつける」という読解の技能を使って、キーワードを見つけ、アップによって伝わってくることを書き込ませる。 <実践1> 資料1の -キと対応

(イ) 比べて分かることを考える「解釈」の段階

段落内の対比的な表現「アップでとると～、しかし・・・」、「ルーズでとると～、でも・・・」から、書き手がその構成を繰り返してアップとルーズの違いを説明していることについては、前時までに読み取っている。そこで、さらに、アップとルーズの関係について考えさせるために、これまでのアップとルーズの読み取りを学習プリントの図に整理し、比べて分かることを話し合い、「アップでは～、ルーズでは～、比べて分かることは～」と筋道を立てて書きまとめさせる。 <実践2> 資料1の -カ、 -イと対応

3 単元の目標（ 価値 技能）

アップとルーズには、それぞれ長所と短所があり、伝える目的に応じて、それらを使い分けたり、組み合わせたりすることで、分かりやすく伝えていることを読み取ることができる。 （読むこと）

目的に応じたアップとルーズの伝え方を、段落の中心となる語や文をとらえたり、対比やまとめという段落相互の関係をとらえたりして、読み取ることができる。

（読むこと）[取り出し、解釈]

身の回りにあるアップやルーズの映像や写真から、伝える目的や効果的な使い方について自分の考えをまとめることができる。 （読むこと）[熟考・評価]

- ・ 学校や地域にあるものについて知らせるために、取材した事柄を目的に応じて選材し、見出しを立てながら分かりやすい割付にして、新聞に書きまとめることができる。（書くこと）

4 指導計画（全17時間・読む12、書く5）

学習のねらい（配時）	主な学習活動 と 指導上の留意点（*） [資料1との対応]
<p>題名について分かることや疑問を整理し、アップとルーズでどのようにして伝えるのかという視点から冒頭を読み、読みのめあてをつくること （1時間）</p>	<p>1 単元名「材料の選び方を考えよう」とリード文を読んで、教材をもとに調べて書く活動へつなぐという学習の枠組みをつくる。</p> <p>2 題名と冒頭(第1～3段落)をつないで読みのめあてをつくる。</p> <p style="text-align: center;"> 合わせて 使って [-ア、イ] アップとルーズで伝える </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つのとり方（違い）がある ・ 見る人に伝えたいことがある ・ 2つのとり方で伝えたいことがある（何を伝えたいのか？） ・（2つのとり方で、どのようにして伝えるのか？） <p style="text-align: center;">↓</p> <p>冒頭「～広いはんいをうつすとり方を『ルーズ』といいます。 ～ある部分を大きくうつすとり方を『アップ』といいます。 アップとルーズではどんなちがいがあるのでしょうか。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">* 伝え方の違いがある。 * 題名と冒頭から残った疑問をめあてにつなぐ。 （読みのめあて） アップとルーズでは、どんなちがいがあるのか。 アップとルーズで、何をどのように伝えるのか。</p>
<p>新出漢字を習得し、語句の意味を</p>	<p>3 新出漢字の練習をし、難語句を調べる。</p> <p>(1) 「試」、「観」、「満」等の新出漢字の読み方、書き順、使い方を知る。</p>

<p>理解する。(1時間)</p>	<p>(2) 習った漢字を熟語にして練習する。 (3) 全文を音読し、分からない語句について調べる。 * 国語辞典を使って意味調べをさせる。</p>
<p>読みのめあてをもとに全文を読み通し、話題の提示 - 説明1, 説明2 - まとめの構成に気付き、「アップ」と「ルーズ」、「伝える」というキーワードをもとに読みのめあての答えを自分でまとめることができる。 (2時間)</p>	<p>4 読みのめあてにそって全文を読む。 (1) 全文を読み、形式段落とその最初の文を確認する。[-イ・エ] * 第6段落の「このように」がどの段落をうけているかを考えさせる。 (2) 内容のまとまりに気付き、読みのめあての答えが書かれている段落の見当をつける。 話題の提示 (形式段落) 説明1 (形式段落) ・アップの説明 ・ルーズの説明 ・テレビでのアップとルーズの使い分け 説明2 (形式段落) [-ウ] ・新聞でのアップとルーズの使い分け まとめ (形式段落) 5 読みのめあての答えを書きまとめる。 * 「アップで～」、「ルーズで～」、「だから～(何を)(どのように)」というまとめ方を示して、書かせる。 [-オ・カ・キ]</p>
<p>自分で考えた読みのめあての答えをもとに友達の読み取りと比べたり、見直しをしたりしながら、学級全体の答えをまとめることができる。 (1時間)</p>	<p>6 読みのめあての答えについて話し合う。 * 答えの傾向を事前に把握しておく。 (1) 「アップとルーズでは、伝え方にどんなちがいがあのか。」 「そのちがいから、アップとルーズで何をどのように伝えるのか。」を分けて発表する。 (2) 読みのめあての答えを全体でまとめる。 「答えの方向」 アップでとると、細かい部分の様子はよく分かるが、うつさされていない多くの部分は分からない。 ルーズでとると、広いはんいの様子はよく分かるが、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは分からない。 だから、アップとルーズでは、それぞれ伝えられることと伝えられないことにちがいがあ。 受け手が知りたいことや送り手が伝えたいことを、分かりやすく伝えるために、アップとルーズのどちらでとるかを決めたり、とったものを選んだり、組み合わせたりして伝えている。 [-オ・カ・キ]</p>
<p>読みのめあての答えとして、6段落や8段落の言葉から、説明の事例を見直し、学習計画を立てることができる。(1時間)</p>	<p>7 全体でまとめた読みのめあての答えをもとに、よくわからない点を話し合い、読み確かめの学習計画を立てる。 アップとルーズのそれぞれで伝えられることと伝えられないことについて文章と写真から詳しく読む。 受け手が知りたいことや送り手が伝えたいことを、アップとルーズでどのように伝えているのかを詳しく読む。</p>
<p>対比的な表現から、アップとルー</p>	<p>9 学習計画をもとに、アップで伝えられることと伝えられないことについて、読み確かめる。(4段落) [-キ] <実践1></p>

<p>ズのそれぞれの伝え方の違いを読み確かめることができる。(2時間)</p>	<p>10 学習計画をもとに、ルーズで伝えられることと伝えられないことについて、読み確かめる。(5段落)[-キ]</p>
<p>アップとルーズを比べて分かることを考えながら、テレビで目的に応じて放送していることを読み確かめることができる。(1時間)</p>	<p>11 アップとルーズで、それぞれ伝えられることと伝えられないことを図に整理し、比べて分かることを考える。 12 テレビでは、何をどのように 伝えているのかを話し合い、書きまとめる。(4～6段落) <実践2> [-カ, -イ]</p>
<p>新聞では、アップとルーズで何を、どのように伝えるのかを考えて、アップとルーズで伝えることよさを読み確かめることができる。(1時間)</p>	<p>13 新聞の写真では、何を、どのように 伝えるのかを書きまとめる。 ・ 伝えたい内容を ・ 内容に合わせてどちらかの写真を使ったり、紙面の広さによって組み合わせたりして～ 14 読み取ったことが本当にそうか、自分が持ってきた新聞の写真と比べながら読み確かめる。 [-オ, -イ]</p>
<p>読み確かめたことをもとに、題名に戻り、読みのまとめをすることができる。(2時間)</p>	<p>13 読みのまとめをする。 (1) 読みのめあてや題名に戻り、アップとルーズの伝え方の違いや送り手として大切な伝え方についてまとめる。 * 既習の掲示物を使って、読み確かめてきたことを振り返らせる。 (2) これまでの学習から、読んで分かったことや考えたことと、読み方のまとめをする。 [-ウ, -ア]</p>
<p>調べたことから知らせることを選び、目的に合った写真を使って、見出しや割付を工夫して新聞を書きまとめることができる。(5時間)</p>	<p>14 「4年3組から発信します」を読み、発信する目的と方法について見通しをもつ。 * メモの書き方や選んで伝える参考になるところに気付かせる。 15 題材について話し合い、図書室で調べたり、取材活動を行ったりする。 * 調べたことは、大事なことは落とさずにカードにまとめさせる。 * 目的にあった写真を自分で撮ったり、本などから選んだりする。 16 カードや写真をもとに文章に書きまとめる。 (1) カードをもとに意味段落のまとまりをつくったり、順序を考えたりしながら、割付をする。 (2) 割付をもとに、新聞に書きまとめる。 17 新聞を掲示し、工夫したところを発表したり、感想を交流し合ったりする。</p>

5 実践1 (情報の「取り出し」、「解釈」として)

(1) 本時の目標

細かい部分の様子がよく分かる叙述に目を付けて、そこからどんな様子が分かるのかを考えながら、アップでとることよさを読み確かめることができる。

(2) 本時の仮説

「キーワードに目をつける」という読解の技能を使って、細かい部分の様子がよく分かる叙述を抜き出し、そこから読み取れることを具体的に書き込ませ、書き込みを見直す学習展開の工夫をすれば、アップでとることよさを読み確かめることができるであろう。

[資料1の -キと対応]

(3) 本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 学習計画を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>(学習のめあて) アップでとると細かい部分のどんな様子がよく分かるのかを読み取り、ゴール直後をアップでとったのはなぜかを考えて、アップでとることのよさを読み確かめよう。</p>	<p>* 学習のめあてから「細かい部分のどんな様子がよく分かるのか」、「ゴール直後をアップでとったのはなぜか」という二つを順に考えることを確認する。</p>
<p>2 本時で学習する 段落を音読する。</p> <p>3 細かい部分の様子がよく分かるといえる叙述や画面の部分を選び、どこから何が分かるのかを学習プリントに書き込む。</p> <p>(全体反応) T1 <u>どんな言葉に線を引きましたか</u> C1 「両手を広げて走っています。」に線を引きました。 T2 <u>そこから、どんな様子が分かるか、考えてみましょう。</u> C1 とてもうれしそうとわかります。 C2 付け加えます。うれしそうに、ばんざいしているみたいです。 T3 <u>この言葉に線を引いた理由は、「うれしそうにばんざいしているみたい」と分かるからです。</u> 細かい部分の様子を表す言葉は他にもありますか。 C まだ、あります。 T4 では、細かい部分の様子を表す言葉を選んで、そこから分かることも書いてみてください。 * 書く活動へ入る。</p>	<p>* 指示「細かい部分の様子がよく分かる言葉に、線を引いてみましょう。」</p>
<p>4 書き込みをもとに話し合う。 アップでとると、細かい部分のどんな様子がよく分かるのか発表する。 アップで分かることと分からないことをまとめ。 5 それなのに、ゴール直後をアップでとった理由を考える。 アップでとるか、ルーズでとるかをどうやって決めるのかについて書かれていた文(最後の段落)とつないで考える。</p> <p>6 本時学習のまとめをする</p>	<p>* 書き込みを見直させるために、「『全身で喜びを表しながら走る選手の様子』の『全身』とは、どこですか。」という発問から、全身が両手・ユニホーム・口であることを押さえ、それらすべてから分かる様子が、「全身で喜びを表しながら走る選手の様子」であることをとらえさせる。</p> <p>* ゴール直後の何を一番伝えたいのかを考え「全身で喜びを表しながら走る選手の様子」を確認する。</p>

6 実践2 (「解釈」として)

(1) 本時の目標

アップとルーズのそれぞれで伝えられることと伝えられないことを図に整理して、比べて分かることを考えながら、テレビでは目的に応じてアップとルーズ切りかえながら放送していることを読み確かめることができる。

(2) 本時の仮説

4～6段落において、アップとルーズを図に整理して、比べて分かることを考えさせ、その説明の仕方を提示する学習展開の工夫をすれば、テレビでは目的に応じてアップとルーズ切りかえながら放送していることを読み確かめることができるであろう。

[資料1の -カ, -イと対応]

(3) 本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点
1 学習のめあてを確認する。	
<p>(学習のめあて) アップとルーズを比べて分かることを読み取り、テレビではアップとルーズで何をどのように伝えるのかを考えて、アップとルーズで伝えることのよさを読み確かめよう。</p>	
<p>2 本時の学習場面を確認し、6段落を音読する。 3 アップとルーズのそれぞれで、伝えられることと伝えられないことを図に整理し、比べて分かることを考える。</p>	
<p>(全体反応) T1 アップとルーズで、それぞれ伝えられることと伝えられないことはどんなことですか。簡単な言葉でプリントに整理してみましょう。 T2 (3分後)では、発表してください。 C1 アップでは、細かい部分の様子がよく分かります。しかし、走っている選手以外の写されていない多くの部分のことは分かりません。 C2 ルーズでは、広いはんいの様子がよく分かります。でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは分かりません。 T3 アップとルーズでは伝えられることと伝えられないことが違うね。アップとルーズを比べて分かることは何ですか。 C3 アップでは、細かい部分の様子が分かるけど、ルーズでは分からない。ルーズでは、広いはんいの様子が分かるけど、アップでは分からないから、反対になっています。 C4 付け加えます。アップでは、ルーズでできることができなくて、ルーズでは、アップでできることができません。 T4 <u>お互いができないところはどうしているのかな。</u> C5 おたがい足りないところをおぎない合っています。</p>	<p>～中略～</p>
<p>4 図に整理し、わかったことを説明する。 「アップでは～。ルーズでは～。比べてわかることは～。」という構成で説明する。</p>	
<p>5 テレビでは、何をどのように伝えるのかを話し合い、書きまとめる。 「どのように」につながる大切なことを考える。</p>	<p>* 受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことにつながることは「目的」に着目して、「何を」を考えさせる。 * 「それで、テレビでは～」を書き出しに書きまとめさせる。</p>
<p>6 本時学習のまとめと次時の確認をする。</p>	<p>* 学習のめあてに対して、読み確かめたことを矢印をたどってまとめながら説明させる。</p>

資料1 PISA型読解力の育成を目指す読解の技能表(試案)

新しい学習指導要領 「読むこと」の目標		低 学 年	
		書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	
		説明文(内容の大体)・物語文(あらすじ)	
情報の取り出し	(学習過程)	(文章の着眼点)	
	<p>題名と冒頭をつないで、読みのめあてをつくる。</p> <p>読みのめあての答え(予見)をまとめる。</p>	<p>[題名を読む]</p> <p>[冒頭を読む]</p> <p>[全体を読む]</p>	<p>・ 題名から何について書かれているのかを予想する。</p> <p>・ 冒頭から、問いや話題提示の文を見つめる。</p> <p>・ 問いの文や話題提示の内容から、キーワードをつかむ。</p> <p>・ 語や文のまとまりをとらえ、明瞭な発音で言葉の響きに気を付けて音読する。</p> <p>・ 形式段落という概念(大まかなまとまり)があることを理解し、マス空きや一行空きに注意して、話のまとまりに分ける。</p> <p>・ 話のまとまりのはじめの文や言葉に注意して、時間の順序や事柄の順序を読む。</p> <p>・ 挿し絵や写真の順序を考え、叙述とつないで説明されていることの全体を読む。</p> <p>・ 問いに対する答えの文を見つけ、読む。</p> <p>・ キーワードとその説明にあたる部分を読む。</p> <p>・ 文章の中の既知の内容と未知の内容を区別して読む。</p>
	予見を確かめる計画を立て、読み確かめる。	[全体と部分を読む]	<p>・ 挿し絵や写真の順序を考え、叙述とつないであらすじを読む。</p> <p>・ 挿し絵から読み取ったことを叙述とつないで、人物の気持ちや場面の様子を読む。</p> <p>・ 人物の行動や様子が分かる叙述を抜き出し、それをもとに人物の気持ちを読む。</p>
解 釈		[全体と部分を読む]	<p>・ 言葉をはずしたり、似た言葉と比べたりして、言葉の意味を読む。</p>
熟考・評価		[全体と部分を読む]	<p>・ 接続語から、文と文のつながりや構成を読む。</p> <p>・ 繰り返しの表現から、強調している内容を読む。</p> <p>・ 読み取った内容について、自分の知識や経験と結んで、自分の思いや考えをまとめる。</p> <p>・ 文末表現から人物の気持ちを読む。</p> <p>・ 繰り返してから、人物の気持ちの強さを読む。</p> <p>・ 一行空きや話の空所を、その後から想像して読む。</p>
	読みのまとめをする。	[全体と部分を読む]	

* PISA型読解力の読解のプロセス「情報の取り出し - 解釈 - 熟考・評価」は、児童の読みの学習過程と対応させて考えられたプロセスではない。そのため「情報を取り出す」、「情報から推論して意味を理解する解釈」、「情報を自らの知識や経験に関連付ける熟考・評価」のそれぞれに必要な技能は、読みの学習過程の中のどの段階で、主に育成されているのかを考えて、表を作成している。

* 中学年の技能は、表内に記号をつけ、算数科の単元、国語科や算数科の実践とつないで説明している。

中 学 年	高 学 年
<p>目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p>
<p>→ 説明文(内容の大体)・物語文(あらすじ)</p> <p>↓</p> <p>説明文(要点,段落相互の関係)・物語文(人物像)</p>	<p>→ 説明文(内容の大体)・物語文(あらすじ)</p> <p>↓</p> <p>説明文(要点,段落相互の関係)・物語文(人物像)</p> <p>↓</p> <p>説明文(要旨)・物語文(人物の生き方)</p>
<p>- ア 既習から、題名の働きを想起し、題名の意味を予想する。</p> <p>ウ 題名と冒頭をつないで展開の方向を読む。</p> <p>イ 冒頭から、問いや話題提示の文を見つけ、展開の方向を予想する。</p> <p>エ 語り手の役割を理解する。</p> <p>- ア 内容の中心や場面の様子が分かるように軽重や速さなどを考えて音読する。</p> <p>イ 大事な事柄を関連付けながら黙読する。</p> <p>ウ 意味段落や場面のまとまりをとらえる。</p> <p>エ 形式段落のはじめの接続詞等から前の段落との関係を読む。</p> <p>オ 内容の関係とその接続の仕方(順序,原因理由,逆接,並列等)を理解する。</p> <p>カ 文脈を理解するために、情報を簡単な図に整理する。</p>	<p>・ 今までに読んだ文章の題名の働きを想起して、要旨や主題について予想する。</p> <p>・ 冒頭から、筆者の考え方や意図を予想する。</p> <p>・ 登場人物の設定意図を読む。</p> <p>・ 語り手の設定意図を読む。</p> <p>・ 書き手の意図を考え、自分の思いや考えと合わせて音読する。</p> <p>・ 目的や意図に応じて、内容を要約したり、詳しく説明したりしてまとめる。</p> <p>・ 登場人物相互の関係から、人物像やその役割をとらえる。</p> <p>・ 各場面で、主人公の考え方や生き方につながる言動を見つける。</p> <p>・ 事実と感想、意見との関係やその構成をとらえる。</p> <p>・ 文章構成について、全体と部分の関係を図示する。</p>
<p>キ キーワードに目をつける。</p>	<p>・ 要旨や主題に関する意識をもって、多様な情報を関連付けて読む。</p>
<p>ク 段落の要点をまとめたり、小見出しをつけたりする。</p> <p>ケ 文末表現等を手がかりに事実と意見について区別する。</p>	<p>・ 事柄の関係等の文章構成と語句の使い方、文末表現をつないで、書き手の意図を読む。</p> <p>・ 人物の行動や会話、情景に暗示的に表現されている人物の心情を読む。</p> <p>・ 比喩的な表現について考え、その象徴的な効果を読む。</p>
<p>イ 段落と段落(文と文)を比べてつないだりして書き手の意図を読む。</p>	<p>・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、形式や表現を工夫して、要旨をまとめる。</p> <p>・ 登場人物の考え方や生き方をとらえ、主題をまとめる。</p>
<p>実践 2, 3 につなぐ。</p> <p>ウ 事例のあげ方や説明の順序から書き手の意図を読む。</p>	<p>・ 自分の立場から書かれた意見についてどう考えるかをまとめる。</p> <p>・ 優れた叙述について自分の考えをまとめる。</p>
<p>- ア 筆者の意見を読んで、それに対して賛成、反対などの自分なりの意見とその理由をまとめる。</p> <p>ア 場面の移り変わりに注意して、人物の気持ちの変化、情景を読む。</p> <p>エ 場面と場面をつないで人物の変わらない心を読む。</p> <p>オ 呼称の変化から、その理由を考える。</p> <p>カ 句読点やダッシュから、そこに込められた人物の気持ちを読む。</p> <p>- イ 話を読んで、より深まった自分の考えをまとめる。</p> <p>ウ 登場人物の体験や思いを自分と関連付けて読む。</p>	<p>・ 登場人物の生き方から自分を見つめ直し、自分の生き方について考えをまとめる。</p>

